

多摩川や市内の川でみられる魚、エビ、カニ類

★絶滅危惧種…日本国内で絶滅のおそれのあるもの ★県内絶滅危惧種…神奈川県内で絶滅のおそれのあるもの

アユ科



◀15~30cm▶

アユ

石に付着している藻類を食べる。なわばりをもつ習性がある。多摩川でも毎年放流されている。

コイ科



◀8~16cm▶

オイカワ

ヤマベともいい、産卵期のオスは青緑色や紅色の鮮やかな色が現れる。多摩川の中流域に多い。



◀15cm▶

カワムツ

体色は背部が褐色系、腹部は白色で暗いたて模様があり、尻びれがオイカワのように長い。上流や中流のゆるやかな淵にすむ。



◀11~45cm▶

ウグイ

ハヤともいい、腹部に朱色の帯模様があり、婚姻色のオスは特に鮮やか。多摩川では上流や中流に多い。

★県内準絶滅危惧種



◀7~14cm▶

アブラハヤ

体色は背部ほど濃い褐色系で、腹部は銀白色となる。うろこは細かく、油を塗ったように見える。

★県内準絶滅危惧種



◀6~11cm▶

モツゴ

クチボソともいい、川の中流や下流、用水路などの流れがゆるやかなところにすむ。



◀6~12cm▶

タモロコ

体色は全体に銀灰色で、口先は丸みがあり、口ひげが1対ある。形と大きさはモツゴに似ている。

コイ科



◀7~12cm▶

ムギツク

澄んだ河川の中流域に多く生息する。幼魚は水草の繁茂する水路などにすむ。幼魚は黒い縦帯が明瞭で成長とともに不明瞭になる。



◀20cm▶

カマツカ

口ひげが1対あり、口を突き出して砂の中のえさを食べる。体やひれには点状の模様がある。小石や砂地の川底にすむ。

★県内準絶滅危惧種



◀50cm▶

ニゴイ

体は細長く体高が低い。短い1対の口ひげがあり、口はやや長めで下方に開く。川の中・下流のゆるやかなところにすむ。

★県内絶滅危惧種



◀8~40cm▶

フナ

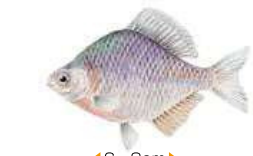
キンブナ、ギンブナ(マブナ)、ゲンゴロフナ(ハラブナ)などフナ属の総称。水のごとれに強い。



◀30~60cm▶

コイ

日本各地に分布し、放流もさかに行われている。口ひげが2対あり、1対は長く1対は短い。



◀6~8cm▶

タイリクバラタナゴ

体は平たく背がやや盛り上がりオスの背部は青緑色で、胸部や背・尾びれの周りが紅赤色になる。川や用水路のよどみにすむ。★外来種

メダカ科



◀3cm▶

ミナミメダカ

水田や用水路などに生息する。動植物プランクトン、小さな水生昆虫などを食べる。

★絶滅危惧種

ドジョウ科



◀12cm▶

ドジョウ

口ひげは5対で、3対は上唇にある。泥の中の有機物や小動物をえさとする。池や沼、水田や川などの底にすむ。

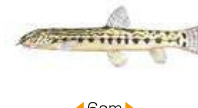


◀6cm▶

ホトケドジョウ

口ひげは4対で、3対は上唇にある。小さな川の上流などのきれいなところにすむ。中層をよく泳ぐ。

★絶滅危惧種



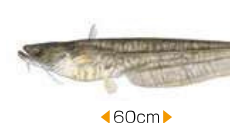
◀6cm▶

シマドジョウ

口ひげは3対で、体に黒い円形の模様がある。背と尾びれに模様が点在する。上流の水のきれいなところにすむ。

★県内準絶滅危惧種

ナマズ科



◀60cm▶

ナマズ

頭は平たく、下あごがやや突き出ている。口ひげは上あごの長い1対と、下あごの1対ずつある。夜行性で、川の中・下流にすむ。

ウナギ科



◀80~100cm▶

ウナギ

川で成長し海で産卵を行う。夜行性で昼間は水際の泥の中や岩陰にひそんでいる。

★絶滅危惧種

ハゼ科

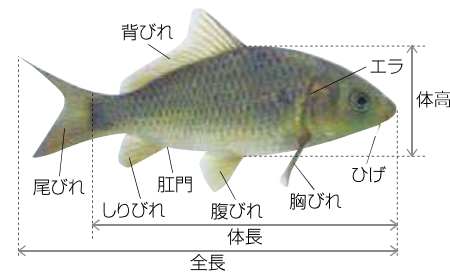


◀6~10cm▶

ヨシノボリ

第1背びれの先は長くのび、吸盤の大きさは長さと同幅が大体同じ。体の模様や色で、シマ、ルリ、トウ(橙)などに種類が分かれている。

魚の部分名称



カニの部分名称

